

北海道社会学会ニュース

H. S. A. NEWSLETTER

発行：北海道社会学会事務局
〒064-0808 札幌市中央区南8条西2丁目 市民活動プラザ星園201
北海道NPOサポートセンター気付
FAX:011-200-0974 Email:socio@npohokkaido.org 担当 菅原
郵便振替口座 02760-3-3085

HOKKAIDO SOCIOLOGICAL ASSOCIATION
c/o Hokkaido NPO Support Center,
ShiminKatsudo Plaza Seien 201, Minami8 Nishi2, Chuou-ku, Sapporo
064-0808 JAPAN URL <http://www.hsa-sociology.org/>

編集責任者：大國充彦（庶務理事） 札幌学院大学経済学部 ohkuni@earth.sgu.ac.jp
〒069-8555 江別市文京台11番地 TEL 011-386-8111(5124)

第64回北海道社会学会大会について

木戸 功（研究活動委員長）

第64回北海道社会学会大会は2016年7月2日（土）に、札幌市立大学桑園キャンパスにて開催されました。一般報告は9本あり、3つの部会を設けました。いずれの部会においても、活発なやりとりがなされ、盛況であったと聞いております。また、午後のシンポジウムでは「北海道新幹線開業・延伸の光と影—観光まちづくりの課題—」という時宜を得たテーマにより、飯田敏郎会員のコーディネートのもとで、奥平理氏（函館工業高等専門学校）、中鉢令兒氏（北海商科大学）に加え角一典会員によりご報告をいただきました。さまざまな交通インフラが整った函館における新幹線の意義や役割、さらに札幌への延伸にともなうさまざまな課題をめぐって、フロアを含めたやりとりは大いに盛り上がりました。大会当日の北海道新聞の記事を見て参加されたという方（非会員）もおられました。シンポジウムの参加者は42名と聞いております。

トータルでの大会参加者は、一般会員39名、院生会員6名、非会員8名の合計53名でした。報告数も含めて、ほぼ例年通りの規模で開催することができました。開催校の原俊彦会員とスタッフのみなさまには会場設営を含めてご尽力いただきました。おかげさまでたいへん有意義な大会を開催することができました。心よりお礼申し上げます。ありがとうございました。

研究活動委員会では、次回大会に向けて、さっそくシンポジウムのテーマの選定の作業にとりくんでいくこととなります。会員のみなさまからのご提案も歓迎いたしますので、アイデアをお持ちの方はお寄せください。

第64回大会シンポジウム「北海道新幹線開業・延伸の光と影—観光まちづくりの課題—」感想

松井理恵（北星学園大学）

2016年3月26日に開業した北海道新幹線。今回のシンポジウムは開業から約3ヶ月が経った今、現実との緊張感のなかで北海道新幹線や観光のあり方について考える機会を与えてくれました。

奥平理先生（函館工業高等専門学校）のご報告「青函交流のあり方—新幹線開業からみえるもの—」で非常に印象的だったのは、新幹線開業のはるか昔から積み重ねられてきた青函交流の歴史でありました。新幹線は地元の人同士を繋ぐためではなく、観光客と地元を繋ぐ交通手段です。最新のデータを駆使して説明してくださった奥平先生のご報告を伺いながら、既存の青函の繋がりや延長線上に、観光客と地元の繋がりを生み出すような、地元も観光も活性化できるような道が模索できるのではないだろうかと考えておりました。

中鉢令兒先生（北海商科大学）の「MICE都市としての函館—広域地域連合としての函館新幹線—」は、近年注目を集める「MICE都市」という切り口から北海道新幹線開業及び函館という都市の可能性を見出そうとご報告でした。函館という都市の「面」に着目しつつ北海道新幹線をどのように都市に位置づけるのかが、大きな課題として浮かび上がってきました。先生がご紹介くださった海外の「MICE都市」の事例からは、MICEによって地域を活性化させるとはどういうことなのか考えながら、それぞれの都市の展望を描いていく必要性を痛感いたしました。

角一典先生（北海道教育大学）の「北海道新幹線札幌延伸は何をもたらすか—負の影響に注目して—」は、北海道新幹線開業の先にある札幌延伸をテーマとしたご報告でした。北海道新幹線は、新幹線が通る地域、あるいは停車駅のある地域だけの問題にとどまらず、北海道全体の、特に周辺部では地域の交通手段が失われるといった切実な問題を引き起こしていることは報道等でもしばしば指摘されています。地域住民がみずから地域交通について考え、限られた資源の中で「選択」しなければならない時期にあるという先生の指摘は、非常に重いものであります。

以上の3報告に対して、フロアを含め質疑応答が活発におこなわれました。一般公開されていたシンポジウムであったため、会員以外の方々のご発言も

あり、非常に新鮮でありました。ただ、中でも印象的だったのは大野晃先生（旭川大学）のコメントでありました。確かに、北海道新幹線によって過疎に苦しむ地域が活性化することもあるだろう。しかし、それはほんの一握りであり、数多くの限界集落は取り残される。このような先生のコメントを伺い、北海道の地域社会のあるべき姿を問う契機として、今、改めて北海道新幹線を考えなければならないのではないかと、思いました。

最後になりましたが、現在進行中の北海道新幹線開業を多角的に捉え、様々な問題を提起する刺激的なシンポジウムをコーディネートして下さった司会の飯田俊郎先生（青森公立大学）、野崎剛毅先生（札幌国際大学）に感謝申し上げます。

第 64 回北海道社会学会総会について (第 64 回北海道社会学会総会議事抄録)

日時：2016 年 7 月 2 日（土）17:00-17:30

会場：札幌市立大学桑園キャンパス

3 階講義室 5

議長：中道仁美会員

報告

1. 編集委員会報告（西浦編集委員長）
刊行済み学会誌の電子化について
学会誌 28 巻まで J-STAGE にアップロードが完了し、29 巻も 1 年後をメドにアップロードする予定である。
2. 庶務報告（大國庶務理事）
 - 1) 会員異動（2015 年 6 月～2016 年 6 月）
入会 6 名退会 4 名
会員数 134 名（一般 116 名、学生 18 名）
 - 2) 学会研究奨励金
金昌震会員（北海道大学大学院文学研究科）の申請を採択した。
 - 3) 2015 年度理事会開催
計 3 回（2015 年 11 月、2016 年 3 月、7 月）およびメールによる持ち回り理事会複数回を開催した。
 - 4) 学会ニュースの発行
計 4 号（全て学会 HP に PDF を掲載）を発行した（104 号～107 号）。
105、106 号は基本的にメール添付の PDF のみの発行とした。
 - 5) 学会事務局（北海道 NPO サポートセンター内）の移転（2016 年 6 月 24 日）
新住所：〒064-0808 札幌市中央区南 8 条西 2 丁目 5-74 市民活動プラザ星園 201
tel. 011-200-0973
fax 011-200-0974
メールアドレスは変更なし。

6) 次回第 65 回大会の開催校について

（加藤喜久子会員）

北海道情報大学（江別市）に決定し、開催責任者の加藤会員より挨拶があった。開催予定日は 2017 年 6 月 10 日（土）である。

議題

1. 2015 年度決算報告（中田会計担当理事）
提案（別紙 1）の通り承認された。
2. 2016 年度予算案（中田会計担当理事）
提案（別紙 2）の通り承認された。
3. 北海道社会学会会則の変更について
次の新旧対照表の通り承認された。

新	旧
附則 四 本会は所在地を、〒064-0808 北海道札幌市中央区南 8 条西 2 丁目 5-74 市民活動プラザ星園 201 北海道 NPO サポートセンターに置く。	附則 四 本会は事務局を、〒060-0906 北海道札幌市東区北 6 条東 3 丁目 3-1 LC 北六条館 6 階 北海道 NPO サポートセンターに置く。

第 3 回理事会報告

日時：2016 年 7 月 2 日（土）12:00-12:40

会場：札幌市立大学桑園キャンパス

3 階演習室 4

出席者：小内会長、西浦・木戸・中田・平沢・飯田・角・大國の各理事。

報告

上記の総会報告事項と同じ。

議題

上記の総会議題以外の事項は次の通り。

1. 学会費請求書について
次年度より会費納入の際に学会費の請求書を発行することとした。

編集委員会より（西浦編集委員長）

『現代社会学研究』第 30 巻の原稿募集について
(2017 年 6 月発行予定)

① 投稿原稿の募集

『現代社会学研究』第 30 巻の投稿原稿を募集します。投稿を希望される方は、学会ホームページから「投稿申込書」をダウンロードし、必要事項を記入の上、学会事務局（socio@npo-hokkaido.org）に宛ててメールの添付書類として送信してください。その際の添付ファイル名は「投稿申込〇〇.doc」（〇〇には申込者の氏名を入れる）としてください。

申込の締切は、8月31日（水）まで（同日必着）とします。申込者には数日のうちに事務局から申込書受理のメールが返信されますので確認してください。申込の時点で 2016 年度までの会費が完納されていないと申込は受理されませんのでご注意ください。

審査用原稿は「執筆要項」の指定に基づくA4サイズ16枚以内のPDFファイルとして作成し、10月31日（月）必着で学会事務局宛てメールに添付してお送りください（従来は、投稿原稿3部を郵送していただきましたが、これは不要です）。

その他の詳細については、学会ホームページに掲載されている最新の「編集・投稿規程」および「執筆要項」を熟読してください。また、「編集・投稿規程」および「執筆要項」に無いようなことに関して、日本社会学会社会学評論の「執筆要項」を準用することにしています。何かご質問がある場合は、下記のメールアドレスにお問い合わせ下さい。

（札幌大谷大学・西浦 功：
isao_nishiura@sapporo-otani.ac.jp）

② 書評対象書の募集

『現代社会学研究』第30巻に書評を掲載する対象書を会員の皆様から広く募集します。自薦他薦を問いません。会員の著作（会員の単著、または会員が編著者になっているものが原則）で書評として是非取り上げて欲しいものがありましたら、その書誌情報（著者名、書名、発行年、版元名）を学会事務局（socio@npohokkaido.org）までお寄せください。

自薦の場合は、書評を書いて欲しい会員名、リプライ付を希望するか否かについてもお伝えください。またできれば書籍現物もお寄せください。特に指名がない場合は執筆者を編集委員会で決定いたします。

当該書の発行時期は必ずしもこの一年間でなくても構いません。過去数年に刊行されたもので、書評対象とするのにふさわしいと思われるものについても可とします。

締切は、10月31日（月）必着です。情報を集約の上、編集委員会で検討して掲載の是非を決め、結果をご連絡いたします。

③ 書評原稿および「往来」原稿の募集

書評原稿を募集します。必ずしも書評という形式ではなく、その書籍の内容に何らかの形で言及しながら、ある研究テーマについて展開する内容となっても構いません。また海外事情の紹介やある分野についての最近の研究動向などに触れた「往来」の原稿も募集します。いずれも学術的な内容であることを条件とし、分量はリプライがつく場合は6,000字程度、つかない場合は3,000字程度とします。

締切は10月31日（月）必着で、学会事務局（socio@npohokkaido.org）までメール添付でお送りください。その際の添付ファイル名は「書評投稿申込〇〇.doc」ないし「往来投稿申込〇〇.doc」

（〇〇には申込者の氏名を入れる）としてください。但し投稿された原稿の取り扱いについては編集委員会にご一任ください。「往来」の投稿が少ない場合などには、編集委員会から個別にご執筆をお願いすることもあります。その折にはどうかよろしくお願い申し上げます。

北海道社会学会研究奨励金について

北海道社会学会では社会学研究の活性化と若手の育成を目的として、2006年より研究奨励金を交付しています。下記により奨励研究を募集いたしますので、ぜひご応募ください。

1. 募集件数：2件（1件5万円）
2. 応募資格：本会会員（若手単独が望ましい。若手とは、自分で科学研究費申請ができない地位にある大学院生や大学院修了者等を指す）
3. 条件：奨励金交付後2年以内の本学会大会での研究発表、および2年以内の『現代社会学研究』への投稿を条件とします。
4. 応募方法：まず応募用紙を庶務理事あて e-mail でご請求ください。ついで応募用紙に下記を記入し、庶務理事まで郵送により提出してください。
①研究テーマ、②応募者（氏名・所属）・郵便番号・住所・TEL・FAX・e-mail アドレス、③研究の目的と「社会学研究」としての意味・位置づけ等（具体的に）、④研究の方法と予想される成果（具体的に）、⑤推薦会員の署名と印
5. 提出期限：2016年10月31日（月）必着
6. 提出先・問い合わせ先：大國充彦（庶務理事、あて先は1ページ編集責任者欄参照）

会費の納入について

2016年度会費または未納分会費について、同封の郵便振替用紙〔郵便振替口座 02760-3-3085〕にてすみやかに振り込み手続きをお願いします。年会費は一般会員6,000円、学生・院生会員4,000円です。

2016年度会費を納入されていない方には、機関誌第29巻（2016年6月発行）をお渡しできません。5年間滞納されると、自然退会の扱いとなります。ご注意ください。

会員情報の変更届について

住所や所属が変更になったときは、遅滞なく郵便かメールで事務局（socio@npohokkaido.org）までお知らせください。その際、e-mail アドレスもお忘れなくご登録ください。